

榊原 洋一 / SAKAKIHARA, Yoichi

先端融合系/ 生活科学部人間生活学科

<http://www.dc.ocha.ac.jp/human/child-childcare/sakakihara/index.html>

■ 研究者情報

連絡先

Email:yoichi1215@aol.com / TEL: 03-5978-5477 / FAX: 03-5978-5477

専門分野

小児科学、小児神経学、発達障害、国際医療協力

■ 研究成果情報

## 発達障害の臨床的研究

### キーワード

発達障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群、特別支援教育

### 研究内容

■ 概要（背景・目的・内容）

発達障害は知的障害や運動障害を伴わないが、対人関係、情動コントロール、読み書きなどさまざまな脳の高次機能が十分に発達しない状態の総称です。近年の調査で、子ども全体の10%近くがこの発達障害の行動特徴を持っていることが明らかになっています。医学的には発達障害は前頭葉の実行機能や、社会性にかかわる脳部位の機能障害であることが明らかになりつつあります。一部の発達障害に対しては薬物治療が有効ですが、多くの発達障害は、生活の場におけるさまざまな困難を軽減するための環境変容や行動療法など非医学的なアプローチが必要です。

■ プロセス・研究事例

(1) 発達障害の子どもへの教室での対応マニュアルの作成

アメリカで長年「教室のバイブル」といわれて広く使用されているPre-Referral Intervention Manual (PRIM) (図1)の日本版を、全国の教員(保育士、幼稚園教諭、小中学校教諭)の対応策をWeb上に集約することで作成するプロジェクトです。教室でよく見られる問題行動を約200選定しそれぞれに対して有効な対処法の要約を各項目ごとに50前後集約します。詳しくは<http://primjp.cf.ocha.jp/primjp/>

(2) 発達障害を規定する要因の国際比較

発達障害はその原因は脳機能にあります。その症状は社会との接点に現れます。そのために、文化、生活環境、歴史、人種によってその現れ方に差があることが知られています。本学で行われたGCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」の研究活動の一環として、アジア(日本、タイ、ベトナム、中国)の5歳児、7歳児を対象とした生活環境、生活の質(QOL)ならびに精神的健康状態に関する国際比較研究を行っています。

■ 潜在可能性（応用・将来展望）

日本版PRIM出版、文化差を考慮した発達障害診断スケールの開発

日本版PRIMのプロジェクトイメージ



### 特許・著作物等の知財情報、製品化情報、あるいは社会貢献実績

発達障害サポートマニュアル(PHP研究所)監修  
特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理(ミネルヴァ書房)編著

### 産学官・社会連携の可能性

■ 共同研究

教室での発達障害の子どもへの行動判定システムの開発